

てん一新聞

OB. 4. No131
発行 市岡田社
責任 市岡田社
0883-88-5292

村民 205人になる

三月で、活彩祖谷村開村三年目に突入しました。村民も205人に増え、二年目の活動も、春の花見、一夏の小川遊び、秋のハイキング、冬の国降屋舎戦四圍大会支援という四季を通じた交流活動をはじめ、ばあばあ連の皆さんが中心となり、畑の耕作では、いんげんや茄子とそば作りが丈夫な収穫をたらしめました。また、九州からは美女子美女隊の皆さんが来村し、ばあばあ連と交流を深めたり、香川県からは、新世紀のばあばあが多数で、登山と交流に訪れ、数々の出逢いがありました。



3年目 活彩 開村 祖谷村

鳥取県知事助成会から四人の議員さん、視察に訪れ、村民にならぬほど、成果も少なからずあり、村の新しい歴史の足あとを残してまいります。

その他、松岡之彦祖谷村開村書庫を倉庫裏コナにオープン出来たり、「元気の赤顔」運動が広がり、おせ、コスモにも数回とりあげられ、するすど、新たな方向も見えたりしています。

くくから、また三年目という、組織体制がまだ不備で、村の運営について、真剣に考え、りかづければ、全員の村民の皆さんを、まっすぐ、かけ声だけで、終りかけの危険さえあります。

今一度、開村した時の、あつちあつち、情熱を、村作りの日常の中にも、発掘し、面白く、楽しい村の生活を、実践して、いくことが求めらるる、と、おもいます。

ともあれ、このゆと、祖谷村作りを、実行し、三年目も、多々の出逢いと、確かな一歩を、歩けるように、力と、知恵を出し、あつちあつち、おもいます。

村民の皆さんと共に、向きの村づくりを、



三年目にあたり、「独立宣言」をおい出(2006.3.5)

独立宣言

おららは、村という行政的名称がなくなると同じように、村の心、温り、絆がなくなっていくことを拒否し、ここにおら自身、自分の考えと行動により、祖先から伝承してきた村の「ぬくもり」を守り、伝えていくことを基本に、

田舎というブランドを大切に
祖谷というブランドにこだわり
不便というブランドとつきあい
誇りをもって自分の力で、楽しく、面白く村の生活を、こつこつと、こつこつと、ここに活彩祖谷村の、独立を宣言する

2006.3.5

